

交流拠点「えぷろん」を核にしたにぎわいのある地域づくり(あいみ富有の里地域振興協議会)

1. 取り組みの背景と目的

南部町では、2004年に会見町、西伯町が合併し、新しいまちで住民自身によるまち作りを進めるため、2007年におおむね旧村を単位とする7地域振興協議会が発足しました。

賀野地区にはあいみ富有の里地域振興協議会を設立し、12集落ごとに集落の将来を見据えた集落づくり計画を策定。

さらに、富有の里の全体計画づくり計画を2009年12月に策定し、今後の賀野地区の姿を展望しました。

同計画の3本柱の一つ「活力とにぎわいのある地域づくり」において農産物加工施設「えぷろん」を活動拠点にし、新たな地域づくりが始まりました。



2. 取り組みの流れ

地域活力とにぎわいづくりを創造するため
住民主導の活動を開始

平成21年度
(1年目)

起

12集落ごとの「集落づくり計画」をベースに
今後の賀野地区の指針づくりを検討

あいみ富有の里
シンポジウム

富有塾スタート
(住民が講師)

地域づくり計画完成
(手づくり製本・全戸配布)



平成22年度
(2年目)

承

指定管理者として引受け、より身近な施設
として運営

とことん「えぷろん」で語
る会 (ワークショップ)

専任スタッフ
の配置・指導

広場の芝生化

トイレ整備

知事表彰受賞
(頑張る住民自治活動団体)



平成23年度
(3年目)

転

ハード整備充実と活発した活動展開の評価

青空市・春市

ほたるウォーク

ユニットハウス構想

歳末「米粉もち」
づくり

結

多面的な地域運営形態の推進
ユニットハウス構想の進展による地域内交流・地域外交流の推進



3. 取り組みのポイントと展開を可能にしたネットワーク

○管理形態

「指定管理」でより身近に

- ・平成22年4月から指定管理を引き受け、地域住民がみそ・豆腐・ジャム・お菓子づくりなどに一般利用

○地域課題に対応

「地域振興協議会」の各部で利活用

- ・協議会の内部組織「総務企画」「生涯学習」「地域づくり」「ふれあい」の4部会で各地域課題に即したイベントなどで施設を利活用

○個別の利活用方法

とことん「えぷろん」で語る会

- ・地域のにぎわいづくりなどをテーマとしたワークショップの開催

ジェイエショップとの連携

- ・賀野地区内唯一の小売店舗との相乗効果を期待した春市の開催など

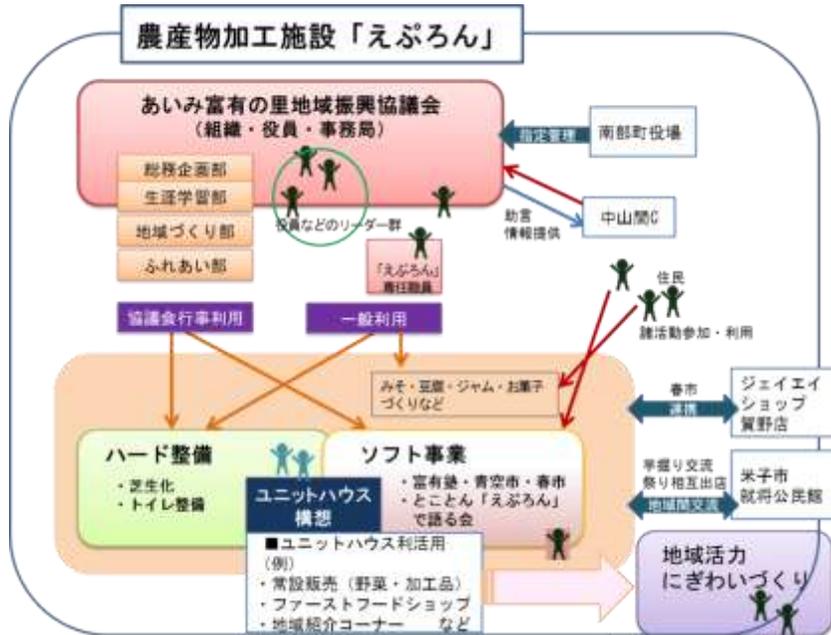
米子市就将公民館との交流

- ・芋掘り交流・祭りへの相互出店等を通じた地域間のパートナーシップを形成

ユニットハウス構想

- ・敷地内に2棟設置予定。常設販売拠点として都市住民からの“外貨獲得”や地域住民の憩いの場としても期待

進化し続ける「えぷろん」のネットワーク



4. 活動の「壁」と乗り越え方

■継続の壁

～なぜ活動を続けられているか～

- ①地域住民による豆腐やお菓子づくりなどの「一般利用」と「協議会各部」のイベントなどでの活用という二つの柱があり、いずれも自分たちの施設という思いがあるため
- ②町から指定管理を受け、より地域で使いやすくなったため

■活動拡大

～なぜ活動の幅を広げられているか～

- ①春から初冬までの毎月第2・第4日曜日の青空市、冬期の富有塾開催など、年間を通じた多様な活用方法がある。
- ②農産物加工施設という単機能から、複合機能のある地域の拠点施設へという目標が掲げられているため、利活用方法に進化が見られる。

5. 他地域で応用できるポイント

①ハード整備は地元住民のボランティアで

○広場の芝生化は、住民ボランティアも活用し、実施されました。整備コストを抑えるとともに自分たちで整備した施設には、より愛着がわくという効果もあります。

②本音で将来構想・未来ビジョンを

○とことん「えぷろん」で語る会では、高齢世代から若者世代まで地域の活性化策について語り合いました。賀野地区への移住者や帰省中の転出者の参加が、多様な意見を引き出しました。

③富有塾で“地域の宝”を発掘

○地域住民が講師になり、デジカメ講座・ペンキ塗り講座などの講義を行ってきました。地域の宝は、将来の地域のリーダーとして活躍することが期待されています。